

No. 1642

緑に親しむ

— 大船 —

3月から6月にかけて全国で緑化運動が盛んに行われます。

神奈川県の大船にある県立フラワーセンター大船植物園の園内は春を迎えて花と緑で包まれています。

池の水面に映る菜の花とオカメサクラの華やかな色彩。温室には熱帯・亜熱帯の植物1300種類が育てられています。

展示場では「東洋らん展」が開催中。出品者は地元の園芸愛好家たちで年間を通じてすみれ、さくら草、えびね、さつき盆栽などの展示が市民グループの手によって行われています。

園芸ブームのせいかホールでの「東洋らんの作り方」の園芸教室も100人を超える入場者で満員の盛況。東洋らんは「洋らん」にくらべると色彩、花型も地味ですが、香りと花のバランスが良いので愛好者が増えています。

花と緑に親しむ環境を家庭に町にふやしていきたいものです。

新都庁舎オープン

— 東京 —

平成3年3月9日、東京新宿で新都庁舎の落成式が行われました。

正面玄関前に鈴木都知事、友好都市パリのシラク市長、都民代表など約50人が並んでテープカット。

落成式典で鈴木知事は「新都庁舎が世界をリードする都市として発展をつづける首都東京の拠点となる」とあいさつ。つづいてシラク・パリ市長が祝辞をのべました。

翌10日から新都庁舎を一般公開。「首都の立派なシンボル」「税金のムダ使い」「豪華すぎる」など、賛否両論の中、初日だけで6万人を超す人がつめかけました。

人気の一番高かったのは7階の知事執務室。都民の目にはどう写ったでしょうか。

45階の展望室も人気のまよ。新都心の高層ビルの中でも一番高く、東京を360度見渡せるとあって新しい東京名所になりそうです。

高層ビルの足元にある都民広場には日本を代表する彫刻家の人像の作品が並べられています。

高さ243メートルの日本一の第1本庁舎と第2本庁舎、都議会議事堂の3棟からなる総工費1569億円の新庁舎は4月1日正式にオープンします。

4月7日の選挙で新しい知事が決まり21世紀に向けて新都政が動き出します。

さて新都庁舎を都民のためにどう生かして行くのか注目したいものです。